

第2回少子化に伴う高等学校教育のあり方に関する有識者会議

議事要旨

日時：令和2年2月3日（月）15:58～16:57

場所：神戸市役所1号館14階大会議室

【提言書（案）に関する意見】

（1）生徒数の減少を見据えた市内の高等学校のあり方

○摺河委員

- ・ 学校の適正規模と適正配置の前提となるのは、各学校の特色化である。各校がどのような生徒を求め、いかに教育し、将来輩出したいのか、アドミッション・ポリシーなどの方針をきちんと市民に示すことが必要である。それにより、特色化に応じた役割が生まれ、特色ある教育環境につながっていくのではないかと。

○森地委員

- ・ 各学校がアイデンティティや役割区分を明確にしていくことで、学校間のリスペクトにもつながる。その上で、得意な分野は相手に任せるなどの部分的な相互乗り入れを行っていくことにより、公私でレベルを上げていけるだろう。

○山中委員

- ・ 神戸市立高等学校のさらなる削減も視野に入れてということで、削減というと寂しい感じもあるが、神戸市ならではの非常に特色のある、生徒が行きたいと思えるような新しい学校を再編整備していくということである。前の会議でも、県立と入試が同じであるなど、市立高校としての特色が見えにくいという意見があったが、市立高等学校として夢のある学校を作っていこうという積極的なイメージを出していくとよい。

○和田委員

- ・ 私立へ行きたい場合でも公立を選ばざるを得ない理由の一つに、公私間の経済的な格差があった。国では、私立に通う生徒の授業料の実質無償化が見えてきており、これからは自分が行きたい学校へ行けるような制度に向け、公私間のハードルが低くなったことも表現に入れてもらえればと思う。

（2）次世代人材育成に向けた高等学校教育の推進

○摺河委員

- ・ 教育は教員の質次第であることから、教員の質を高める研修や環境が非常に大切である。記載されているように、AIやIoTのスキルを身につけさせるための研修はもちろん、教育の第一義の目的である人格の完成に向けて、民間企業での研修や外部での経験などに加え、体系立てて身につけられるような環境づくりも必要である。公私で協力して作っていききたい。

○和田委員

- ・ テクノロジーの進化やグローバル化を意識した教育に加え、少子化が進むほど個別の対応も必要になってくることから、各個人の個性が育っていくようなきめ細かい教育の提供という視点も取り入れていただければと思う。

(3) 市立高等学校の役割

○森地委員

- ・ 葺合高等学校の国際科は、例えば1年次から神戸市外国語大学の授業も一緒に学ぶことができるなど、思い切ったフレキシビリティを発揮して、ここに行けばグレードの違うものでも同時に勉強できるといった魅力を打ち出していてもらいたい。
- ・ 防災教育について、色々な災害が世界各地で頻発する時代においては、世界で防災・減災のリーダーを担っていける人材の育成を目指していけば、市立高等学校の特色になるのではないかと。

○山中委員

- ・ 市立の商業科と工業科が、地域の産業を担う人材を育成してきたことは素晴らしい。一方で、専門科だけでなく普通科においても、地元の産業界と連携しながら、将来働くことを意識したキャリア教育を充実させていくことが望ましい。

○摺河委員

- ・ 今後の社会では、海外からの人材の受け入れが必要になることから、中等教育においても外国人材を受け入れる環境を準備してもらいたい。
- ・ 提言(案)に記載されているように、市長がリーダーシップを発揮して、教育についても責任を持って進めてもらえることはありがたい。

(4) 神戸市内の高校生に対する多様な教育機会の創出

○山中委員

- ・ 神戸市内には医療産業の集積やスーパーコンピューターをはじめ、世界でもトップクラスの研究機関がある。これらを活用しながら、市内の高校生が多様な特色ある経験ができるよう働きかけてほしい。これらはSDGsにもつながっているものである。
- ・ インターンシップや海外留学プログラムの充実について、国では「トビタテ！留学JAPAN」という、企業からの寄付を活用して留学時の奨学金を出すプログラムを実施している。神戸市も地元企業と協力しながらこのプログラムを活用するなどして、市内の高校生の海外留学を促進してはどうか。

○和田委員

- ・ 「トビタテ！留学JAPAN」の活用では、神戸市内の私学にもぜひ声をかけてもらえればありがたい。
- ・ 中学生までは「のびのびパスポート」を持っているが、市内の高校生にも広げ、博物館などにも行きやすくしてもらえると嬉しい。

○摺河委員

- ・ 教育現場へのSDGsの反映やプログラムの確立はまだできていないため、今後研究し、高校生が理解

できるようにしていく必要がある。昨年まで国連の大使を務めていた別所氏は、灘高等学校の出身であることから、そういう方を招いて研究していくことも一つではないか。

○森地委員

- ・ 企業との連携などの外部プログラムについても授業の単位として認めてはどうか。大学では単位認定しているところもあり、話す側も聞く側も真剣味が増すと思う。
- ・ どういうプログラムを提供していくかが重要であり、企業が顧客満足度をいかに上げるかを検討するのと同様に、生徒が何を求めているかを、高校のマネジメントの中ですくい上げながら試行錯誤して行ってほしい。

全体を通じて

○和田委員

- ・ 私立と市立の教員交流があまりできていない。前回会議でも挙げたとおり、神戸市私立学校協会の研修会には、既に市立高等学校の教員に参加してもらっており、市教育委員会の教員研修会についても、私学の教員にぜひ機会を提供していただければと思う。
- ・ 神戸市や外郭団体、あるいは市内の企業等へのインターンシップの機会があれば、私学にも声をかけてもらいたい。県の場合は県立と私立の高校生の日程が分かれているため、生徒の交流が進むよう、市ではできれば同じ日程で実施してもらえるとありがたい。

○山中委員

- ・ 公私連携した教員の研修機会の提供については、まずは市立の研修に私立が参加できるようにするなどして、今後ぜひ積極的に進めてもらいたい。

○摺河委員

- ・ 体系立てた研修を実施するためには、教育をとりまく環境や学ぶべき内容について研究を進めながら、研修内容に反映する必要がある。それを可能にする環境を公私で作ることができるとよい。

○寺崎副市長

- ・ ご多忙の折、提言をまとめるにあたって貴重な御意見をいただいたことに厚く御礼を申し上げたい。神戸市内には県立と私立の高等学校が充実している中で、少子化を見据えた市立高等学校の役割と必要性について、原点に帰って議論をすることが必要である。公私連携や地元企業との連携、市の特色を生かした高等学校のあり方について、教育委員会と一緒に具体的に議論してまいりたい。
- ・ のびのびパスポート関連で補足だが、博物館は一部企画展も含め、既に高校生が無料になっている。

○司会

- ・ 事務局にて本日いただいた意見を提言書（案）に反映の上、最終の意見照会を行い、2月下旬にはまとめていきたい。また、提言書の完成後には、総合教育会議で議論ができるようにと考えているが、具体的には委員の皆様と相談の上決定したい。